仙台市総合計画審議会　第４回地域とくらし部会議事録

日　　時　　令和２年３月 25 日（水）　18：00～20：20
会　　場　　仙台市役所２階　第二委員会室
出席委員　　阿部一彦委員、阿部重樹委員、岩間友希委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、
　　小岩孝子委員、今野彩子委員、佐々木綾子委員、傳野貞雄委員［９名］
欠席委員　　折腹実己子委員、加藤和彦委員、佐藤和子委員、佐藤静委員、
　　永井幸夫委員、中坪千代委員［６名］
仙　台　市　　福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、
（事務局）　　郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、郷古地方分権・大都市制度担当課長、
　　柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議　　事　　１　開会
　　２　議事
　　(1) 令和２（2020）年度審議会日程について
　　(2) 市民参画事業について
　　(3) 基本計画の検討について
　　(4) その他
　　３　閉会
配布資料　　１－１　仙台市総合計画審議会委員名簿
　　１－２　まちと活力部会委員名簿
　　２　　令和２（2020）年度 審議会日程（案）
　　３　　令和元（2019）年度 区民参画イベント報告書
　　４－１　仙台市基本計画検討資料 概要（修正版２）
　　４－２　仙台市基本計画検討資料（修正版３）

１　開会

○郷湖政策企画部長

皆さま、本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、これより「地域とくらし部会」を始めさせていただきます。

それでは、部会長よろしくお願いいたします。

○阿部一彦部会長

ただいまから「仙台市総合計画審議会　第４回地域とくらし部会」を開会いたします。

はじめに本日の審議会運営について、事務局より説明があるとのことですので、お願いいたします。

○郷湖政策企画部長

事務局より、本日の審議会におけます新型コロナウイルス感染症への予防対策についてのご説明と、委員及び傍聴されている皆さまへのご協力のお願いを申し上げます。

本日は、皆さまの座席間の距離を取れますよう広い会場に変更いたしましたほか、会の途中にも適宜換気を行ってまいります。

またご発言の際のマイクはお一人１本ずつとさせていただいております。委員の皆さまにおかれましては、マスクを着用してご発言されましても結構でございます。

続きまして傍聴の方々へのお願いでございます。本日は、こうした状況を鑑みまして、受付にて体調などを確認させていただいておりますが、咳症状のある方はマスクの着用をお願いいたします。また、そうでない方につきましても咳エチケット等にご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

○阿部一彦部会長

承知いたしました。皆さんご協力お願い申し上げます。

また、委員の皆さまにおかれましてはマスク越しでの発言となる場合もあるかと思いますので、お名前をおっしゃってからご発言いただくようにしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に定足数等の確認です。事務局、報告願います。

○郷湖政策企画部長

定足数でございますが、本日は、現時点で９名の委員の方にご出席をいただいておりまして、定足数を満たしていることをご報告いたします。

続きまして委員の変更についてご報告をさせていただきます。審議会委員名簿を資料１－１、まちと活力部会員名簿を資料１－２としてお示しいたしております。この度、仙台農業協同組合青年部の役員交代に伴い、遠藤耕太委員に代わりまして、新たに笹羅良輔委員がご就任されました。また、奥村会長の指名によりまして、笹羅委員には「まちと活力部会」をお引き受けいただくということになりますので、ご報告させていただきます。

○阿部一彦部会長

次に会議の公開・非公開の取り扱いですけれども、前回と同様公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。

（了承）

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。それでは公開といたします。

続きまして、本日の議事録署名委員の指名ですけれども、前回は小岩委員にお願いしました。今回は今野彩子委員にお願いします。よろしいでしょうか。

（了承）

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。
では事務局より資料等の確認をお願いします。

○郷湖政策企画部長
お手元に座席表、次第、資料一覧、資料１－１、資料１－２、資料２、資料３、資料４－１、資料４－２をお配りいたしております。それから毎回でございますけれども、青いファイルに前回までの主要な資料を綴じたものを机の上に置かせていただいております。
資料の不足などございませんでしょうか。

○阿部一彦部会長
皆さんよろしいでしょうか。

２　議事
(1) 令和２（2020）年度　審議会日程について
○阿部一彦部会長
議事に入ります。議事の第１「審議会日程について」です。事務局より資料に基づいて説明願います。

○松田政策企画課長
ご説明申し上げます。資料２をご覧ください。一番下の部分が来年度の審議会の日程でございます。
新年度の審議会は全部で６回を予定しております。９月から10月初旬まで行う中間案のパブリックコメントに向けまして、前半は５月中旬から７月までに全体会を３回開催し、中間案の作成に向けてご審議いただく予定でございます。
その後のパブリックコメントを経まして、後半は、いただきました市民意見のご確認、そして中間案の修正等についてご審議いただきまして、令和３年１月の審議会におきまして基本計画の答申案を決定するスケジュールでございます。

○阿部一彦部会長
ありがとうございました。説明いただいた通り、これまで３回開催してきた部会は本日で最後となります。次回から審議は全体会に戻りまして、７月下旬には中間案を決定するというスケジュールとのことです。
それでは事務局の説明について、皆さんから質問がありましたらいただきたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
では日程についてはよろしいということで、委員の皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

(2) 市民参画事業について
○阿部一彦部会長

次の議事に入ります。議事の第２「市民参画事業について」です。事務局より説明願います。

○松田政策企画課長

資料３をご覧いただきたいと思います。こちらは、区別計画の策定のために今年の１月から２月にかけまして５区それぞれで行いました区民参画イベントの報告書でございます。

表紙をお開きいただきますと１ページ、２ページがちょうど青葉区のページとなっておりますが、このように各区見開き２ページでまとめております。

若い方々の参加も意識しながら募集をかけたところでございまして、当日は小学生をはじめ中高生、大学生などの参画もたくさんいただいたところでございます。５区全体の参加者数は 222 人でございました。

現在、各区で区別計画の骨子を検討しておりますけれども、そこでの検討内容、地域づくりの方向性なども踏まえながら、区の将来像であるとか、区の課題、そして強みについて幅広いご意見を頂戴したところでございます。

また、未来の区の姿の実現に向けて必要な取り組みなどについても多々ご意見を頂戴したところですが、５区共通したところとしましては、世代を超えた交流の場に関するご意見など、暮らしに身近な目線でのご意見を頂戴したところでございます。

当日いただきましたご意見については、お手元の資料を後ほどご高覧いただきたいと思いますが、これらのご意見も参考にしながら、現在区ごとに区別計画の骨子案の検討を進めているところでございます。次回の全体会の中でお示しさせていただく予定でございます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今の説明では次回の全体会で、この報告書の意見も踏まえたうえで区別計画の骨子が示されるということであります。

現時点では報告書についてのご意見ということではないかもしれませんけれども、何か確認したいこととかございましたら、委員の皆さまよろしくお願いしします。

よろしいでしょうか。そのように進んでいくということです。

それでは「Ⅴ　区別計画」については、次の全体会で本格的な審議ということで、よろしくお願いいたします。

(3) 基本計画の検討について

○阿部一彦部会長

次に議事の第３「基本計画の検討について」です。事務局よりお願いいたします。

○松田政策企画課長

それでは資料４－１、資料４－２をご覧いただきたいと思います。こちらは前回のこの部会でお示ししました資料に、前回いただきましたご意見を反映・修正したものとなっております。

資料４－２が本体の資料でして、資料４－１はその内容をまとめた概要版となっております。今回は全体の構成に大きな修正はございませんので、資料４－２に基づきまして、主な修正点をご説明していきたいと思います。

また、「まちと活力部会」でのご意見を踏まえて修正した箇所もございますので、情報を共有するために併せてご説明申し上げます。

それでは資料４－２の５ページをお開きください。ここは今回新たに「計画の構成」をお示しするページとして追加したものでございます。このページは計画策定の基本的な考えと、その考えに沿った計画の構成立てについて説明するページとなっております。

これまでの審議会におきましても、それぞれの章の趣旨や関係性についてのご質問が多々ありました。まちづくりの理念、そして都市像、８つのプロジェクト、分野ごとの施策の方向性。これらがどのように関連していくのかというところについてのご質問があったところでございます。こういったことを踏まえまして、それぞれの章の位置付けを明確にするとともに、計画策定の基本的な考えと全体の構成を計画の具体的な内容に入る前に、この部分でお示しをするものでございます。

５ページの冒頭では、これからのまちづくりを進めるにあたっては、「仙台が持つ都市の強みを活かし、協働と挑戦を重ねながら、新しい価値観を創造していく姿勢こそが大切である」という考えをお示ししておりまして、この考えに沿って以下の構成が流れていくということでございます。

「Ⅱ　新たな杜の都に向けて」では、まちづくりの理念にあたる部分であり、これまで培ってきた仙台の都市個性を見つめなおし、これらを深化させた姿を「目指す都市の姿」として掲げるということをお示ししております。

次に「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」につきましては、その趣旨として、これからの10年間を見据えて、仙台に関わる私たちが、知恵や技術を持ち寄ってチャレンジしていきたいプロジェクトであるということをお示ししております。

なお、前回の資料では「重点プロジェクト」という名称でございましたが、「重点」という名称は予算の重点化と誤解を与える可能性があるとのご指摘や、かねてからこのプロジェクトの趣旨をご審議いただきましたが、行政、市民、企業、さまざまな主体が、チャレンジしながら取り組むプロジェクトであるというところを踏まえまして、名称も「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」としてお示ししているところでございます。

その下の「Ⅳ　分野別施策一覧」ですが、こちらは行政としての仙台市が多様な主体の方々と連携しながら取り組む施策の方向性を網羅的に示す部分でございます。

これまでのご説明の中では、この「Ⅳ　分野別施策一覧」は今申し上げたように行政の施策の網羅集であり、プロジェクトに関する取り組み以外の施策も含まれているとご説明してまいりました。基本的にその位置付けは変わらないところでございますが、あらためてご説明しますと、８つの「チャレンジプロジェクト」を進めるうえで、いわゆる行政たる仙台市が行う施策をこの施策一覧の中に含めておりまして、また、プロジェクトを直接

的に推進するものではない施策も含まれているところでございます。

「Ⅴ　区別計画」はそれぞれの地域特性を踏まえた、５区の地域づくりの方向性を示すものとなっております。

次に６ページをご覧ください。

「“The Greenest City”SENDAI」につきましてでございます。前回は「“For The Greenest City”SENDAI」と表現していたところですが、前回の「まちと活力部会」におきまして、for ではなく toward の方が〇〇の方へ、という方向性を示す表現として適切ではないか、というご意見があったところです。この点につきましては、その後 for と toward の使い方や違いについて事務局でも調べ、そのニュアンス、その捉え方、さまざまな捉え方があるというところ、そしてまた toward という単語は一般の市民の方々の理解としてはなかなかハードルが高いのではないかというような懸念もありまして、今回はそういった for、toward といったワードをいったん外してお示しをさせていただいておりますが、引き続き検討してまいりたいと思います。

続いて７ページをお開きください。「都市個性」の「環境」に関するこれまでの歩みの部分につきましては、前回、「まちと活力部会」におきまして、里山などいわゆる西部地区を含め全体を俯瞰しての都市構造自体が杜の都であるというご意見がありました。

このことから、２行目の後段になりますけれども、「寺社並木、丘陵地の森林、海手の農地」などを追記しているところでございます。より幅広い緑を杜の都の環境の中に含めたところでございます。

また、グリーンインフラに関しましても、より充実させていくものであるとのご意見をいただいておりまして、同じ環境の「未来へ」の部分に「グリーンインフラを充実させ」と修正しているところでございます。

続いて 10 ページをお開きください。「都市個性」の「活力（東北における交流と経済の広域拠点）」の部分でございますが、これまでの歩みのところにつきまして、前回、「まちと活力部会」におきまして、これまで取り組んできた「地下鉄による十字の都市軸によるまちづくり」、この部分についての記載が抜けているのではないかとのご指摘をいただきましたので、今回、中段になりますけれども、「都心部だけでなく東西南北に走る地下鉄や鉄道の沿線では」と追加したところです。

続いて 11 ページをお開きください。「まちづくりの理念と都市像の概念図」でございます。このイメージ図につきましては、絵のトーンがふわっとした形になっていまして、挑戦を続けるというワードとイメージが合っていないのではないか、とのご指摘を前回頂戴いたしました。今回はこのままでお示しておりますけれども、今後この基本ベースは生かしつつ、デザイン等を修正してまいりたいと存じます。

12 ページをご覧ください。ここからが「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」の説明になりますけども、先ほど申し上げた趣旨を今回より丁寧に記載したところでございます。

具体的には、この「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」の２段落目になりますが、「これからの 10 年を見据え、８つの分野の目標、そして実施の方向性を定めて、知恵や技術を持ち寄って取り組んでいきたい」と考えているものであるということ。そして私たちにとっての挑戦の舞台そのものであるという、私たちが未来を自分たちの手でつくっていく、そ

ういう舞台であることをあらためてここでお示しをしているところでございます。

続いて 13 ページをお開きください。ここからがそれぞれのプロジェクトの内容となります。まず、８つのプロジェクト全体に共通する修正点をご説明申し上げます。前回はこのプロジェクトの名称の隣に主な都市個性の掛け合わせ、例えば、このプロジェクト①では、環境×活力というような掛け算をお示ししておりましたが、部会におきましては、掛け算表記は必ずしも２つの都市個性に限らず、３つ、４つの掛け合わせもあるのではないか。そういったことを 11 ページの概念図が示しているので、この２つに限定した都市個性の掛け算表記は不要ではないかというご意見がありました。このため今回はこの表記を削除させていただいているところでございます。

また、前回の「まちと活力部会」でも、右側の実施の方向性についての記載のレベル感が合ってないのではないかとのご指摘がありました。今回全体を見直しまして、前回はかっこ書きで事例を書いていたり、さまざまなレベル感、記載のばらつきがあったものですから、今回は揃えさせていただいたところでございます。

それから同じ「まちと活力部会」では、掲載するデータに関しまして、関連するものをより多く掲載した方が良いのでは、とのご意見もいただいたところでございます。ここのページには「実施の方向性」により関連性の深いデータを掲載するということとし、その他のさまざまな関連データは確かにありますので、そういったものは資料編として最後にまとめてお示ししたいと考えておりまして、この辺りは今後、全体会の中でお示ししてまいりたいと考えております。

以上がプロジェクト全体に共通する修正点でございます。

次に個々のプロジェクトに関する主な修正点についてご説明いたします。

13 ページの「①杜と水の都プロジェクト」の名称です。前回は「杜と海の都プロジェクト」でございましたが、「まちと活力部会」では広瀬川などの親水空間の活用なども踏まえた表記とすべきとのご意見がありましたので、今回「杜と水の」という名称に修正しました。

それから 16 ページをお開きください。２つ目のプロジェクト「②防災環境都市プロジェクト」。この実施の方向性のうち、３つ目の「防災・減災の備えを日常に浸透させる」。ここのところですが、非常時の事例として自然災害のほか、感染症を追加いたしました。これは、前回いただきましたご意見、新型コロナウイルス対応などの必要性に関するものを踏まえて修正したものでございます。

少し飛びますが、29 ページをお開きください。29 ページからは「Ⅳ　分野別施策一覧」でございます。前回までのご議論を踏まえまして、その位置付けを明確化し、冒頭の２行にまとめたところでございます。位置付けは先ほどご説明したとおりですが、行政である仙台市の施策を網羅的にまとめたものであるということ。また目指す都市の姿の実現に向けて取り組むものであるということで、まとめ方も都市像ごとに分類する形でおまとめしているところでございます。

最後に 41 ページをお開きください。「（３）持続可能な行政運営」のところでございます。ここについて、新たに上から３つ目ですが「危機管理の推進」を追加したところでございます。これは前回、先ほど申し上げたように新型コロナウイルス対策に関するご意見

を頂戴したこともありますし、また、地震はもとより、この間の大雨や台風などが頻発する状況を踏まえたものでございます。

以上が資料の修正でございます。併せまして議会での審議状況もこのたびご紹介させていただきたいと思います。

仙台市では２月から３月にかけまして、第１回定例会が開催されたところでございます。複数の議員からこの総合計画の策定状況に関するご質問もいただきました。１つは“The Greenest City”を掲げた主旨、そしてこの“The Greenest City”が目指す具体的な都市の姿についてご質問を頂戴したところでございます。これにつきましてはこの資料に基づきましてご答弁申し上げたところでございます。

また、商工会議所さんからいただきました提言書「チャレンジシティ」もありましたが、そういった提言についてもご質問がありまして、総合計画の方向性についてのご質問があったところでございます。

策定への市民参画としまして、若者の意見聴取の必要性についてもご意見がありました。これにつきましては仙台市としてももちろん重視をしているところでございまして、先ほどご紹介しました区民参画イベントについても、若い世代の方々の参画に留意したところでございまして、そのようなご答弁を申し上げたところでございます。

今後も議会における質疑がさまざま出される可能性がありますので、この場で情報共有を今後もさせていただきたいと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。それではただ今説明もありましたけれども部会での審議は今回が最後となります。本日の審議の目標としては、この部会が所管する４つのプロジェクト、③、④、⑤、⑥についてあらためて集中的にご意見をいただき、最終的に部会として確認したということにしたいと思います。そのようなことですので、本日は「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」を最初に審議したいと思います。

次に計画全体の立て付けの話に戻ってということで、今回新たに加わった５ページの全体図、全体図に示されている関係性も示されている図ですけれども、それと「Ⅱ　新たな杜の都に向けて」を合わせて審議いたします。

さまざまなご意見が出ると思いますけれども、なるべく本日当部会での意見をまとめることができれば良いのかなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それから「Ⅳ　分野別施策一覧」も少しですけれども、時間を取りたいと思います。残りのパートは時間が余ればという程度に留めたいと思います。18 時から 20 時という目標で進むところでございます。大まかな時間もお示ししながら、皆さんに議論をお願いしたいと思います。

それでは、早速「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」です。これは一番時間をかけて、おおむね１時間ぐらいをかけて取り組みたいと思います。資料の 12 ページから 28 ページの８つのプロジェクトのうち、当部会の所管は「③心の伴走プロジェクト」「④地域協働プロジェクト」「⑤笑顔咲く子どもプロジェクト」「⑥ライフデザインプロジェクト」の４つのプロジェクトです。本日はこのプロジェクトの目標、それから右ページの「実施の方向

性」を中心にご意見をいただきたいと思います。

各プロジェクトは大まかですけれども 15 分ずつで皆さまからご意見をいただき、最後に意見のまとめや修正点の確認を行うということを 15 分ずつ４回繰り返します。おおむね 60 分になりますけれども、そのように進めたいと思います。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。ではまずは「③心の伴走プロジェクト」、17 ページからですけれども、こちらについてご意見を承りたいと思います。よろしくお願いします。

前回の皆さまの意見をもとに、全体の構成の仕方も変わったということでもありますけれども、まずは「③心の伴走プロジェクト」についておおむね 15 分。皆さんいかがでしょうか。

遠藤智栄部会長代行、よろしくお願いします。

○遠藤智栄部会長代行

図のところなのですけれども 17 ページの左下の「地域における課題認識」というところのタイトルの図、こちらは出典のところに「地域の福祉に関するアンケート調査」という記載があるのですけれども、「地域における課題認識」というタイトルを見てからこの表を拝見すると、地域の課題を市民に問うた時に挙がってきた課題の上位なのかなという認識で私最初に見たのですね。そうすると地域の課題を出していただいたというよりは、福祉に関する課題を出していただいたっていうことでのこのデータなのか、それとも地域の福祉に関するアンケートの中で地域における課題は何ですかって聞いたものなのか。主に福祉というくくりがあって出たものであれば、「福祉における課題認識」というテーマのタイトルの方がいいのかなと思ったのですが。

○阿部一彦部会長

そのようなことは、確認もありますので事務局お願いします。

○松田政策企画課長

こちらのタイトルとアンケートの出典の内容にずれがあるのではないか、地域課題であればもっと幅広いものが挙がってくるのではないかということかと思います。

こちらについては内容を確認しまして、より正確な表記となるように修正したいと思います。

○阿部一彦部会長

よろしいでしょうか。遠藤智栄部会長代行、確認ということで。

ありがとうございます。そのほか委員の皆さんいかがでしょうか。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

左のページの、「特に力を入れるべき施策」のグラフを見ていて、客観視して「あれ？」と思ったのですけど、１位だけが表記されていると思うのですね。でも２位も 45%を超

えているように見えるので、２位は何だったのだろうと。特に力を入れるべきで言うと、やっぱり上位に挙がっているものは要素として入れてあげた方がいいのかなと思って。中身は何だったのか気になるなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。もっともなことだと思います。２位も結構多いのにということですよね。その確認ですのでお願いします。

○松田政策企画課長

すみません。今、手元にこの調査結果がないのですが、これは私どもが総合計画の実施計画の進行管理の一環で毎年行っている調査でございまして、今は正確なところが分からないので、後日回答させていただきます。表記については検討したいと思います。

○阿部一彦部会長

岩間委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

委員の皆さまいかがでしょうか。

傳野委員、それから佐々木委員の順でお願いします。

○傳野貞雄委員

今の「特に力を入れるべき施策」ということでいじめが出たのですが、学校におけるいじめの未然防止というのはどのような対策でしょうか。未然防止というのが少し分かりにくいかなと思うのですけど。やはりそういう風土をつくらない教育のような気がするのですが、未然というのは、そもそもそういうことがないようにということなのか。今日も学校に行ってきていろいろ対策しているということを聞いたのですけども、今学校を挙げてさまざまなことをやっているのですよね。

この間は宮教大から大学院の准教授さんがいらして、50 人以上の人が集まって、一生懸命やってくれた中で、自分のところの体験までご披露をいただいて、それぞれが手をつないで、こういうことをやっていこうよというところまで来ていましたのですが。

この未然防止というのはどうやったら、いじめなのか、いじめじゃないかというところを認知しながらやるか、それとももうそういうことが起こらないようにしようよという施策だとか作戦があるのかなと。

あるいはどのようなことで未然防止になるかっていうのが、ちょっと外れているかもしれませんが、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

○阿部一彦部会長

これも確認ということですので、事務局お願いします。

○松田政策企画課長

いじめにつきましては、いじめは決してあってはならないという認識で３つ、未然防止、早期発見、早期対応というところで取り組んでいるところでございます。学校としてはさまざまな相談体制などを取っているところではございますけれども、あと調査であるとか、そういったことはしておりますが、未然防止となりますと、おそらく今、委員からご指摘があったように、いじめは決してあってはならないというところを、お子さんだけではなくて、保護者の方であるとか、地域の方であるとか、学校を取り巻く関係の方々が一体的になって一からお話をしていくという取り組みが主になるものかと思っております。

○松田政策企画課長

傳野委員よろしいでしょうか。

続きましては、佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

すごく細かいことかもしれないのですけど、例えば 17 ページですね、現状がありまして、表がありまして、黒点が２つあると。黒点の上の方は、現状とか、表における何を言っているかということの要約を書いていただいていると思うのですけども。２つ目の黒丸のところが、きっとこのことが大切になってきますというご説明を書いてくださっているのかなと思うのですが、このページの「多様性の広がり」のところだけ２つ目の黒丸のところが、「重要になっています」、「求められています」とか、そういった形ではない感じになっていて。その辺、そろえる必要があるのかなとか。すみません、細かいところなのですけど。ここだけちょっとなんか表記が違ったので気になったところでした。

○阿部一彦部会長

確認ですが、他の３つの所には「重要になっています」とか「求められます」という記載なのだけれども、多様性の広がりのところの記述は少し違うように思うということですか。

○佐々木綾子委員

そういうふうになっているみたいなので。

○阿部一彦部会長

確認ですので、お願いします。

○松田政策企画課長

確かにご指摘のあるとおり、今ざっと８つのプロジェクトのポツを確認しましたけれども、委員のご指摘のような構成になっていると思います。

ここに現状でこのデータを示ししているのは、右側につながる実施の方向性、だからこういう取り組みを皆でしていきましょうというところにつながる部分でございますので、現状、そして必要性、実施の方向性とつながるような流れを想定してつくっている部分が

あります。多様性のところについては、どのような表現が適切かということを検討させていただきたいと思います。

○阿部一彦部会長

検討を行うということで、佐々木委員、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。そのほか委員の皆さまいかがでしょうか。あと５分ちょっとありますけれども。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

右ページの「実施の方向性」の 02 のところ。「孤立しない、つながる仕組みをつくる」というのはとても良いことですし、うんうんと思うのですけれども、01 には高齢者、障害者、外国人というふうに例が挙げられているのに対して、02 は、今すでに十分やられているということもあるからだと思うのですけど、例えば、私のようにマンションで暮らしている人間とか、その一軒家で単身になってしまった高齢者の方とか、そういったもう少し細かい表記はしなくて大丈夫かなということを思いました。より具体的に実施しやすくするために、書くべきなのかどうかというのを、ぜひ皆さんからご意見をいただきたいです。

例えば、町内会も高齢化がすごく進んでいると思っていて、たぶんその地域のコミュニティーづくりとかもう皆さんすごく頑張ってやられていると思うのですけど、高齢化が進んでいてなかなか若い人が入ってくれなくなっているとか、そういう課題を共通してお持ちだと思うので、それをここに少し書くのかどうかというようなところを、ぜひ皆さんからもご意見をもらいたいです。

○阿部一彦部会長

岩間委員、ありがとうございます。皆さんからもご意見いただきたいということでありましたので、皆さんからご意見いかがでしょうか。そしてその上でまた事務局に進んでまいりたいと思います。皆さんどうでしょうか。今の岩間委員の提案というか確認というか。

事務局お願いします。

○松田政策企画課長

ここの部分は前段の方が、いわゆる住民とありますので、今ご指摘があったように、特に誰かを限定しているわけではなくて、さまざまな住居形態の方であるとか年齢性別にこだわらず住民同士の支え合いということを書いておりまして、その下が一定の配慮を要する方には特に、というような構成になっているところでございます。

本日はこのような箇条書きの形で書いておりますけれども、実はおとといいました「まちと活力部会」でも、こういう記載だと分かりづらいのではないかというようなご指摘もいただきましたので、これを一般の市民の方が読んで分かるように文章化する作業を今後考えたいと思います。

あまりたくさん長々と書くつもりはないのですけれども、一般の方が読んだ時に分かるようなもの。あと行政用語が結構入っているというご指摘もありました。そういったところを直してきたいと思うのですが、今申し上げた前段のところは、いろいろな人を対象にしているのだということが分かるように、文章化する時に留意していきたいと思います。

○梅内まちづくり政策局次長

事務局からの補足でございます。おとといのまちづくり部会の方でもご意見があったところですが、岩間委員がおっしゃられましたように、この「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」というのは当然、行政計画というだけではなくて、市民の皆さまにも主体的に取り組んでもらうべきものでございます。先ほど申し上げましたように、箇条書きにしているということもあって「誰が」とか主体の部分が書いてある部分と書いてない部分があります。それだと市民の方が自分でできる部分は自助ということで地域でやりますということになると思うのですけども、この書き方ではそういう部分の役割がはっきりしないというようなご意見がありました。今申し上げましたように、そこは少し長く書き込まないと伝わりづらいわけですが、一方で、全部をそこに書ききれるものなのかどうかちょっと難しいところもございます。そこのご指摘はどちらの部会からもご意見があった点なので、各委員の皆さまからご意見いただければ、文章化の際に生かしていきたいと思っております。

○阿部一彦部会長

傳野委員、お願いします。それから奥村委員。

○傳野貞雄委員

「地域における課題認識」のところなのですが、マンションと一戸建ては全く違うということをご理解いただいているかどうかということなのですね。

孤独死ということが私の住むまちでも１年に１回から２回起きておりまして。それなりの人を配置はしたり、警察だとか包括支援センターを呼んで鍵開けてもらったりという事例が半年に１回は最低あります。ですからここの作業として今マンションがどんどん都市化になって増えていると。それから戸建てに住んでいる夫婦のうちどちらかが亡くなると草取りなどが面倒くさくなって、戸建てを売ってマンションに移っていく人がいるのですね。そういう方々の事例がボツボツ出てきておりますので、その辺の捉え方を、一面的じゃなくて、戸建てと集合住宅という部分で捉えないと、集合住宅の方がもっと大変なことになっているのではと。町内会とそのマンションとの町内会契約、町内会との連携ということでこの間提携させてもらったんですけども、そういう意味で、マンションの方々がどういう対策をしていいか分からないから町内会とも相談したいという話を持ちかけられているところでありますので、やはり私としては、マンションと戸建てと別々に捉えないと、やはり仙台のマンションは東北で一番多いし、入居している方々も相当多いと思うので、そういう面の捉え方も仙台市としては必要ではないかと思います。

○阿部一彦部会長

大事なご指摘ありがとうございました。

奥村委員からも話を伺って、そして、事務局お願いします。

○奥村誠委員

あえて違うことというか、反対の意見を言います。

前も言いましたように、プロジェクトというのを限定的に、この範囲で間違いなくこれをするのだというつもりで書いてしまうと、逆に入らないところが出てきてしまうのですね。だから、これはむしろぼやっと、この前も最初の時から言っていますけど、いわば演劇をする時にスポットライトが数本しかないので皆さんから私のところを照らせと言われても、それはもう無理なので、ここに光が当たりますように、自分がそこのところに関係があると思う人はきちんとそこで踊ってください、そこで声を出してくださいっていうつもりでのスポットライトなのです。

だから、ここのところはあんまり限定的に書きすぎると、ここに書いてないから私は関係ないのだとなるのがむしろ怖いと私は思います。

ですので、後段の網羅的なところについては、「入ってないよ」という意見はもちろんあると思うのですけど、むしろここのプロジェクトのところはあえてぼやかして、いろいろな人が関わるのだと考えてもらう方がいいのではないかなという感じを受けました。

そういう意味で、書き込んでいくと、それぞれまた長くなるし、そこのとこに「これがまだ入ってないよ」という話になると収拾がつかないのではないかなと思いまして、無理しないほうがいいのではないかな。

そして逆に言うと、ここのところで「事前には想定していませんでした」と言ってはねつけるのではなくて、「関係あるのですね、じゃあそのことも考えましょうね」ということで進めていっていただければそれでいいのかなという意見です。それが１つ。

もう１つは、ある程度住民同士の支え合いのようなことはこれまでも十分やってきているので、「促進」という言葉がいいのか、やっぱり「維持」というのか、何か持続的にずっとつながって、これがつながっていくような、残っていくようなという意図の言葉だから「促進」よりも「維持」なのか「発展」なのか、「受け継ぎ」なのか分からないですけど、そういう言葉の方がいいのかなと思います。「促進」という言葉はものすごく力がプラスアルファでどんどん行くみたいな感じを受けるのですけど、むしろベースとして皆がそれは当たり前のようになるということで言うと、もう少し柔らかい、長い言葉の方がいいのかなと感じました。これは意見というか感想です。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。最初の方の奥村委員の話で、むしろぼやかして書いた方がいいのではないかということに関して、これは委員の皆さまからご意見いただきたいと思います。

いかがでしょうか。遠藤智栄部会長代行。

○遠藤智栄部会長代行

奥村委員がおっしゃっていただいたところに関連して、コミュニティーを考える時、エリアのコミュニティーを考える、テーマのコミュニティーを考えるのかとか。でもそういうこと入れてしまうと長くなってしまうなとか。

ではこの文章にある「地域」を、読んだ人はどういうイメージで受け取るのだろうか。例えば、小学校区ぐらいのイメージで地域を捉えるのか、自分が住んでいる区みたいなイメージで捉えるのか。それは読む人によって全然違うのかなとかですね。そうなった時に、「地域」という言葉を使った方がいいのか、「コミュニティー」っていう言葉を使った方がいいのか、「地域コミュニティー」という言葉を使った方がいいのか、どれなのだろうと私も悩んでおりました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。そのほか、まずは奥村委員の話も踏まえたうえで。

○今野彩子委員

どこまで明確に書くかという点において、少し視点が違うかもしれないのですけども、若者と女性、商工会議所とかからいろいろ提言をいただいて、若者のところはかなり際立って、立っているなって印象を受けているのですけど、女性の視点でご提言をまとめていただいたものが、どういうふうに反映されているかなと。

実はこの前にせんだい男女共同参画財団の評議員会でその話があったものですからなおさらそういう視点で考えていたのですけども。女性がどうとかといった書き方はあまりされてないのですね。ただ書くべきかなと考えた時に全て SDGs のジェンダー平等のアイコンはほぼ全てのものに入っていますし、当然、地域活動だとか企業の働き方のところでも女性が参画するということはこれから当然そうなっていくだろうという点においては、あえてそこを書かないで多様性を包括するみたいな感じの方がいいのかなと、自分なりに納得したところがありまして。今の発言が出たので、あえてお話をさせていただきました。

なので、ぼやかして書くという考え方は１つ私もあるかなと思います。

○阿部一彦部会長

ただいまは「③心の伴走プロジェクト」のところですけれども、そのようにある程度ぼやかして書いた方がいいのではないかというご意見。「ここに書いてないから大事ではない」ではないけれども、書き過ぎれば書いてないものとの違いが出てきてまたまずいということもあるのかなと思います。このことについて委員の皆さまからご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

傳野委員、お願いします。

○傳野貞雄委員

分かったような気がします。というのは、専門的に突っ込むなら突っ込むなりのそれぞれの組織があるということ。例えば泉区の場合は、戸建てが多いのですね。もうすでに30％を超えて 40％へのチャレンジ中というところ。そういう意味で泉区は仙台の一部分

とはいえ、それでも５分の１以上の人口を持っているところなので、先程意見を申し上げました。ただ、奥村先生のお話を聞いて、仙台市全体ととった場合については、そういう意見もいいのかなと感じたところです。

○阿部一彦部会長

ここの記載については、ある程度、奥村委員の言葉をお借りすればぼやかした方がいい、というようなことでよろしいでしょうか。

よろしいですか。皆さんうなずいていただきました。

これまで委員の皆さんから出たお話について、事務局から何かありますか。

○松田政策企画課長

いろいろご意見ありがとうございます。ちなみにですけどもマンションと戸建てのそれぞれの課題というのは違う、そして課題が違えばもちろんアプローチも違うというところについては、こちらとしても認識をしているところです。

高齢者の住んでいるところをマーキングしていくと、実は１人暮らしの高齢者は都心に多く、郊外は高齢者のご夫婦がとても多い。ということは、言ってみると単身高齢者の予備軍とも捉えられます。それぞれに対したアプローチというのがあるんだと思います。その辺りになってくると、今ご意見いただいたように、ここのレベルに書くものなのか、この後に施策の分野ごとのものがあるので、そこがいいのか。さらに例えばこの後に実施計画というものが、こちらとしても策定する予定になっておりまして、おおむね３年間の事業を回していくようなもの。そこのところにより焦点を当てて、より明確にした事業レベルで落としていくのがいいのかと、いろいろレベル感がありますので、今ご一致いただいたように、ここはあくまで広く取っておいて、いろいろな人が、いろいろな考えの方が、いろいろなアプローチで絡んでこれるように間口を大きく捉えたいと思っております。

ただ何にフォーカスを当てているのかというところをはっきりさせる必要がありますので、そこは今のこの箇条書きではなかなか一般の方には分からない言い回しになっているところもあるので、より丁寧に書いていきたいと思っております。

後は男女共同の部分は、分野別の方ではより明確に出てくるのですけれども、今申し上げたような考えで、ここは特にその主体というところを限定はしていないというような形になっております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。私から１つだけ、18 ページの「誰もが暮らしやすい環境の整備」について。まずはユニバーサルデザインの推進ということ。そして合理的配慮というのはユニバーサルデザインが十分にいかない場合には合理的配慮が大事になるし、ユニバーサルデザイン化するには時間もかかる。その時には合理的配慮が重要性になるということが明確に伝わるようにしてほしいと思います。

ともすると合理的配慮が全てだと勘違いされているところもあるのですけども、仙台市は、地下鉄東西線はユニバーサルデザイン化しました。南北線はユニバーサルデザイン化

していないから、車椅子を利用する方には駅員さんにスロープを用意してもらうのが合理的配慮ですよね。仙台は分かりやすい例を持っているので、その辺のところもここに記載するということよりも、伝わるようにするといいなと思いました。よろしいでしょうか。

小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

12ページにあります「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」の７番目「⑦TOHOKUチャレンジプロジェクト」に「東北」と入れた意味合いを確認したいと思ったのです。

１行目は“The Greenest City”SENDAIってなっていて、東北というのをそこに入れたのは、仙台が東北の中心になるという考え方でしょうか。それとも東京圏に対しての東北という意味合いなのでしょうか。その辺のところ分からないので確認しておきたいなと思ったところでございます。

○阿部一彦部会長

ただいまは、私たちのプロジェクト③、④、⑤、⑥の③についてですけども、⑦についての確認ということも大事なので、もう１つの部会でその辺のところどうだったかということを、まずは今のご質問に関して事務局お願いします。

○松田政策企画課長

「⑦TOHOKUチャレンジプロジェクト」については、おとといの「まちと活力部会」では別のご意見で、チャレンジするプロジェクトに対し、チャレンジプロジェクトなのにまたここにチャレンジって入るのかというところの名称に対するご意見はありました。

そこはちょっと検討したいと思うというお話をさせていただいたんですけれども、ここで東北にフォーカスを当てているのは、かねてから仙台市よりも、より東北全体の方がこれから人口減少、高齢化がより進んでくるというところで、仙台市としては、仙台市のことだけではなくて東北全体のことも考えていかないといけないというようなご意見、そしてまた、仙台の発展というのは実は東北全体に支えられているんだと。だから東北が発展しないと仙台も発展していかないのだというようなところでして、さまざまな経済政策、観光交流政策がある中で、ここはより東北という広い視点を持って取り組んでいこうというチャレンジプロジェクトだというところもより明確にお示ししたかったので、東北という言葉を出しているところでございます。

○阿部一彦部会長

小岩委員、よろしいでしょうか。今の説明ですけども。

○小岩孝子委員

意味合いは分かりました。ありがとうございます。

○阿部一彦部会長

まずは「③心の伴走プロジェクト」が終わって、④、⑤、⑥と進んで、そして①、②、⑦、⑧と進めさせていただきたいと思います。

続きまして「④地域協働プロジェクト」です。皆さんいかがでしょうか。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

20ページの01の２つ目の黒丸のところなのですけれども、「地域に根ざした持続可能な地域交通の確保」のところの「地域交通」の後に「・移動」というのも入れていただけるといいのかなと思ったのですね。

地域交通となると、市や民間交通事業者が事業を行う交通のみをイメージしますけれども、移動が入ると、例えば、いろいろな社会福祉法人さんが取り組んでいるサロンの時の送迎なんかも入ってきますし、後は住民の人たちがボランティア送迎で無償送迎ということでやるようなことも移動の足ということも含まれます。人が移動するっていうことは生活上必須なわけで、いわゆる交通事業者が行う交通だけじゃないものもあるので、「・移動」を入れていただいて、人が暮らすための移動っていうことを幅広く考えられると、この協働の枠もさらに広がって検討できるのではないかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今のご意見も踏まえて、委員の皆さんから何か今の関連でもいいですし、そのほかでも意見伺ってから進めさせていただきたいと思います。

いかがでしょうか。

○遠藤智栄部会長代行

奥村委員が交通に詳しいかと存じます。

○阿部一彦部会長

奥村委員が交通に詳しいからということで、お願いします。

○奥村誠委員

「地域交通」とは、専門分野でよく使う言葉なのですけれども、ここに最初に「地域に根ざした」と書いてあるから「持続可能な移動の確保」でいいのではないかという話もありますね。

実はですね、やっぱりこれまでの交通の分野での考え方というのは、人口が伸びてきてどんどん動く人がいっぱいで混雑が大変だという時代につくられた考え方によって計画っていうのが成り立っているのですね。

だからなんとなく交通が大事だって言うのだけど、交通とは実は手段で目的ではないのですね。目的は移動なのですよ。だから人が移動できるように手段として交通を準備するというのが本来的なのですが、動きたい人の方が多いのに交通の方がついていかないからどうするのだっていう時代が長かったから、交通が言葉として主役みたいになっているの

でね。本当のことを言えば、移動がどういうふうに確保できるかという問題なので、最初に「地域に根ざした」という言葉もあるので、ここは「地域交通の確保」ではなくて「移動の確保」でいいのではないかと私も思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。「移動の確保」ということですよね。よろしいでしょうか。

今の関連でも、またそのほかのことでもよろしいです。

先ほどは「促進」という言葉を柔らかくと、ここでも「促進」と出てきていますけども、ここのパートでもご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○奥村誠委員

先ほど言った意味は、まだまだ十分取り組まれてなくて頑張ってやらないといけない段階でしたら「促進」という言葉でいいのですけど、ある程度定着をしてきていて、でも受け継いでいくのが大変だよねとか、高齢化してきて担い手が心配だよねとか、そういうような時になってくると「促進」ではなくてむしろ「維持」なのかなと思ったので。「促進」と書くとまだやってないのという気がする。だからそのくらいの意味合いなのですけど。政策形成への参加はまだできてないから「促進」でもいいかなと思ったりもするのですけど、教育機関との連携もまだされてないという認識なのかな。どちらでもいいと思うのですけど。まだされてないなら「促進」でも結構ですけど、十分にされていてこれから心配というのは「維持」かなと。

○阿部一彦部会長

「促進」と記載するとまだ何もできてないというイメージになるのではないか。ある程度進んでいる、結構進んでいるのは「維持」というように、それぞれの記載ごとに検討すべき、記載の仕方を考えるべきではないかというご意見だと思います。

このことについて委員の皆さまいかがですか。

傳野委員、お願いします。

○傳野貞雄委員

今、マンションの話を理解できたのですけど、地域の交通の問題は深い問題でむしろ「促進」という言葉は当てはまらなくて、この「確保」というのが一番大事なことに尽きるのかなと考えていますから。この言葉でいいのかなと思います。

○阿部一彦部会長

この言葉でいいというのは。

○傳野貞雄委員

「促進」というのは、団地はみんな山削って、みんな坂なのですよね。それで歳とともに免許証返したとか、地域だけの交通手段だとかいろいろ考えていますけれども、全てに

お金がかかることでもありますし、「促進」というよりは「確保」というのが、日常生活に寄与するいい言葉だなと考えます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。委員の皆さまそれぞれのところで違うのかもしれませんけれども、言葉の表現の仕方についてご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

「促進」については進めるという形でやっているとこもあれば、そうではないとこもあるのでいいのかなと思うのですけど。その下の「地域に根ざした持続可能な移動の確保」ってなるとすると、「地域に根ざした」というところがすごく深いなと思ったのですね。

今、高齢者の方たちが買い物をするのに困っていて、どうしたらいいかという問題もあるし、お体の不自由な方たちが移動するのにバスを使えなかったりとか、そういう問題も出てくると思うのですね。

「地域」という捉え方もちょっと難しいのですけど。「根ざした」ってところもあって、そこまで言ってしまうとタクシー会社の人たちとか、移動の問題でも、許可が下りなかったりすることがたくさんあるので、その辺のところはどうなのだろうと思う。そこまでやれたら一番いいなと思うのですけど、この「地域に根ざした」というところが難しいなと思うのですね。本当にやれるのだろうかって。うちの地域でも考えているのです。正直言って。でもそこを実現するのに非常に難しいものがあって、実現できたらいいなとは思うのですけど、そこまで許可すると言うと変ですけど、できるんだろうかっていうのが、言葉的には「地域に根ざした」はいいのですけど、それぞれのところで坂があったりいろんなことがあると、課題がそれぞれあって、どこまでという交通手段の移動のというのが難しいなと思ったのですね。

○阿部一彦部会長

先ほど傳野委員のご意見では、「促進」というよりも今ないところもあるから、ここの部分については「確保」という表現がいいと。でもこの「地域に根ざした持続可能な移動の確保」という記載に、小岩委員は少し難しさがあるのではないかというご意見ですけれども。

奥村委員。

○奥村誠委員

だからこそ「チャレンジプロジェクト」だというふうに思うのですね。ですのでここには簡単なこと書いちゃダメですよ。だからみんなやって欲しいって、なんとかこうならないかなと思っているけども、難しいかもしれないけど知恵を集めてやりましょうということを書いておくべきだから。書くのに値するのだと私は思うのです。

○小岩孝子委員

私もそれなら、これを見たらやりますとなります。正直言って。だけどどこまでやれるのだろうっていうことが、難しさがどうしてもあって、実際にやろうとすると何年もかかっていたりするところがあるので、どうなのというので言ってみました。

チャレンジしていいという前提のもとだったら、これでいいのかと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

言葉の使い方は、すごく難しいなと思い、私も考えていました。やっぱり今奥村委員がお話ししていただいたように、これあくまでもチャレンジしていくっていう挑戦の計画といったところに立ち戻りますと、本当できるかできないかって言ったところはもう超えていて、いかにしてやっていくかっていう意気込みを見せる計画でもあるのかなという。

言葉の使い方では、やはりポジティブな使い方がいいのかなと思っておりまして。例えば「確保」とか「促進」とか「推進」とか、前に進んで行くぞという使い方がいいかな、全体的にですね。例えば「維持」となると、何か現状維持で、チャレンジには…。ニュアンス的に、維持するにしてもチャレンジしていかなきゃいけない時代なのでそれすごく分かるのですけども、言葉の取り方で意識も変わってくるかなと思いますので、比較的ポジティブな言葉が使えるといいかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。奥村委員のお話で、結構進んでいるものについては「維持」ということもあるし、その課題、課題でもちろん使い分けるということですよね。そして、まだ本当に取り組まなければいけないことは「確保」っていうことも大事だし、その辺のメリハリというか言葉遣いを重要にしていくべきではないかというご意見ですよね。ありがとうございます。

この辺で阿部重樹委員にお願いしていいですか。

○阿部重樹委員

また、言葉の問題で、20ページの一番下のところ、「プロボノ」について２点ほど。まず１つが「プロボノ」が一般の人にとって分かりづらいのではないか。それから「プロボノ」をここの文章に入れるとかえって分かりにくくなるのではないか。「プロボノ」というのは無報酬性というそもそもの意味があるらしいのですね。ですので、もし入れるとすれば、「専門性のある人材が地域貢献活動」とするとか、「貢献」とかいう文字を入れた方が、むしろここで文章をお考えになった事務局の趣旨に合うかなという気がします。

２つ少し違うこと申し上げてしまいました。「プロボノ」はご検討いただきたいと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。それではこれまで委員の皆さまから意見を出たことなどに関して。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

19 ページの目標のところ、下から２行目の「柔軟な発想を持つ若者や、知見・技術を持つ企業のような多様な主体が関わり」のところなのですけども。「企業のような多様な主体」を「若者とか企業をはじめとする主体」とか「含む主体」とかとすると、もっと他の主体がもっとたくさんいて、そこも含めて連携、協働連携するということになるかなというか。「企業のような主体」が主体となると、意味が限定されるかなと思いました。

もう１つがですね、実施の方向性のところで 02 が「若者を」ということになっているのですけれども、「若者と女性」でもいいのかなと思ったのですね。東日本大震災以降、私もいろいろな地域で復興支援の活動させていただいていると、東北あっての仙台だということも含めて考えると、女性がもっともっと活躍し、自分らしい人生を歩むということも大事だなと思いましたので。ちょうど若者からの提言もいただいていますし、女性からの提言もいただいているので、この辺り若者と女性ということが入ってもいいのかなと思いました。

皆さんはどう考えるか、お聞かせいただけたらと思います。

○阿部一彦部会長

皆さんの考えをお聞かせいただきたいということです。いかがでしょうか。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

少し先走ってその辺お話しさせていただきましたけども、全体に溶け込んでいるという認識で私は理解したのですね。ただ中小企業の現状とか地域活動の町内会を見ると女性ってところはまだまだなのと、ジェンダーの平等率は日本がひどくて、東北がさらにひどくてということがあるので、テーマを絞って女性と書くということは１つ考え方としてはあるかなとは思います。ただ全体に女性が活躍、女性も多様な主体の１つとして含まれるのだということは、全体的なところで何らか書く必要があるかなと今あらためて思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さんいかがでしょうか。

今野彩子委員は、遠藤智栄部会長代行の若者と女性と書くことに関して全体的に見ればどうでしょうか。

○今野彩子委員

書くとすればここだけなのかなっていうところが気になります。全体として女性もと書くか、女性というところをはっきり謳うのであればここのほかにもあるかもしれないなと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

遠藤智栄部会長代行。

○遠藤智栄部会長代行

私は全部に女性と入れる必要はないと思っています。特に女性の活躍が欲しいところとか、厳しいところには書いておいた方がいいかなと思ったのですけども。ほかはある意味、男性も女性も、男女に限らない、枠に限らない、全部に当てはまることだと思って。

ただ若者がここに出ているのも、若者がなかなかまだ地域でアクションできてない、機会が少ないとかですね。だったら全体を、30 年後を見据えて 10 年の計画をつくる時に、女性がまだまだアクションできてないというか、そこってどこなのかなと考えると、ほかの場所というよりはなんかここの辺りがいいのかなと、考えてみたところなのですけど。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。遠藤智栄部会長代行のご意見、今野彩子委員のご意見などを踏まえて、委員の皆さまいかがでしょうか。

それではここで委員の皆さまから表現の仕方、また、その中身のことなどでいくつかご意見をいただきましたけども、それらについて事務局から話してもらっていいですか。

○松田政策企画課長

結論から言うと、持ち帰って検討したいというところではあるのですけども。

１つ地域交通のところは、確かにおとといの「まちと活力部会」でもご指摘を受けたのですが、私たちは分かっているつもりでも、一般の人は何のことを言ってるのかが分からないと。ここは実は公共交通と比較する形での地域交通と書かせていただいたところでして、今仙台市で、例えば燕沢地区で地域の方々がバスを走らせているという、そういうものを想定しておりまして、今後、そういったものにもっとチャレンジをしてさまざまな動きが出てくればいいなというところで書いてはいたのですけれども。

一方で移動の確保、移動手段の確保というご指摘も受けました。そうするともっと幅が広がるような気がしています。地域で運営する足の確保だけではなくて、例えばオンデマンドタクシーであるとかＵｂｅｒであるとか、そういったものもより以降幅広くこの中に入ってくるのかなというところがありましたので、ちょっと表現は、ここは検討したいと思います。

行政の悪い癖ですぐ「促進」と使ってしまうのですけれども、そこは果たして「促進」がいいのか、「推進」がいいのか、なるべく前向きな表現というところはありますけれども、ちょっと検討したいと思います

「プロボノなど」というところも、ここはやはり分かりづらいというところもありますので表現を検討したいと思います。「まちと活力部会」では仙台市は支店経済で、それがあたかもマイナスのことのように言われていたけれども、実は優秀な人材が絶えず送り込まれる。そういうメリットもあるのだというところのご指摘もあったので、そこを意識して書いたところがありますけれども、少し筆が走ったところもありますので、あらためて適切な表現について検討したいと思います。

女性というところにフォーカスを当てて取り出す部分については、全体を見てみまして、必要であれば若者と同じように書くということもありますし、私たち全てに関わる、主体を限定せず、全体の中で溶け込ませるというようなご意見もあれば、そのようにしたいと思います。そこは私たちも全体を見て確認させていただきたいと思います。

○阿部一彦部会長

委員の皆さまの意見を踏まえて事務局でも検討を進めるということでよろしいでしょうか。

では⑤に行きます。「⑤笑顔咲く子どもプロジェクト」21 ページ、22 ページです。ご意見よろしくお願いいたします。

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

まだ表現に迷いがあるのかな。左側の目標のところに「育ちの環境」とありますよね。その割にはその下の文章の中では「育つ環境」とか「育てる環境」となっていて、「育ちの環境」とはあまり聞かないですよね。いい言葉だとは思うのですけど、一般的にピンとこないというか。それはそうなのだけれどもなかなか分からない感じがするので、この「育ち」「育て」あるいは「育む」みたいなものの言葉遣いがこのページだけでもすごく揺れているような感じがするので、そこのところは揃えた方がいいのかなと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。表記の問題です。後から事務局に、皆さんのほかの意見も含めて、考えというか現状を確認したいと思います。

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

ここのところ、子どもの話になると急に大人の方が立場が強くなってですね。何て言うのかな、全般にそうなのですけど。チャレンジということについては、この前の市政だよりに書かせていただいたところに載っているのですけど、失敗するから成長するんですよ。ところがここのところだけ、失敗しないようにうまく育ってほしいみたいな匂いがものすごくするのです、

そうではなくて、いろいろなことに子どももチャレンジしてくれるとか、いろんなことに関心を持ってくれとか、そういう段階の話がもう少し欲しいな。右側に行ってしまうと

もう能力を決めてそれを間違いなく効率的に育てるみたいなトーンの書き方にどうもなっていて。もっといろいろなことに興味を持ってもらうとか、失敗を恐れずにトライしてもらうみたいなことが、もっと実は大事なのではないかなという感じがするのですけど。感想で申し訳ございません。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。奥村委員の指摘もありますので、委員の皆さま、そのことも踏まえてご意見などいただきたいと思います。いかがでしょうか。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

今、奥村委員におっしゃっていただいたような、失敗できるというか、失敗を温かく見守ってもらえるような環境ということが、いわゆる子どもの育ちと学びの土壌としてすごく大事だというような。ちょうど三菱ＵＦＪさんの調査か何かでも地域の土壌というのがとても大事で、失敗できるとか失敗から学べるというのが大事だということも書かれていました。

市民活動をやっている方々も、失敗しながら諦めるまで失敗じゃないとか、よく言い訳的に言ったりもするのですけども。そういった観点で、失敗してはいけなくてこういうふうにちゃんと生きなくてはというよりも、最初おっしゃっていただいたように失敗できるみたいなことの表現が、目標なのか 01 の辺りなのか、私も入っているといいなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

感想みたいになってしまうのですけども、失敗を恐れずチャレンジする環境というのは、子どもたちの意識によるものではなくて大人が失敗したくない環境をつくって、そこで大人が失敗したくないのですよね。なのでそこの環境の中ではやっぱり子どもに課すのではなく、大人がそこを許容していくとか、自分自身、大人自身もその意識をマインドセットしていくことがすごく環境として大事かな。それがどう表現するかはあれですけれども、そういう土壌があるのかなと思っています。

後、左側に「自分には良いところがある」という表があるのですけれども、実施の方向性にこれがどう紐付くのかなっていったところが１つございまして。例えば、１番というか、ここの全ての根底に、子どもたちの自己肯定感、自分には価値がある、そのままでも価値がある、自分のこと大好きだ、自分にはできる力があるみたいなそういう心を育むことがすごく大事で、そこが失敗を恐れずチャレンジしていくとか、意欲になるとか、個性が引き出されるということにつながってくるのかなと思っております。

この「自分には良いところがある」といったところだとやはり問題視しているところの現状があるので、実施の方向性のところでそういった自己肯定感とかですね、そういったところを表記されるとすごくいいのかなと感じました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今野彩子委員。

○今野彩子委員

今の自己肯定感の話に関連してなのですけど。先ほどの話ですと、挑戦する大人の姿を見せられているかみたいなことも含めて、子どもたちの自己肯定感を高めるために大人がどういう姿であったらいいかってことを考えていかなければいけないなと思いました。子どもたちを育てるという大人のスタンスもあるのですけど、自分たちがどうあるかみたいなところをここの部分で入れていくということもあるのかなと。私も感想みたいですけど、思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

子どもたちは失敗するとか失敗しないとか考えて生きてないと思うのですね。大人がそう思っているだけで、子どもたちは失敗か失敗ではないかというのを考える前に、今の子どもたちが本当に何かに取り組むってことが少なくなっているということが一番課題なのかなと思っているのですね。

だからそういう意味ではいろいろな場づくりとか、いろいろな人に会うとか、いろいろなことを見るとか、そういう環境を、一家族単位ではなくて、地域全体で見ていかなければいけないというのが大きな課題ではないかなと思います。

それも学校も、自己肯定感を育てるために地域に反対に入ってきたりしながら、うちの福祉施設とかそういうところに子どもたちが体験しに来るということを実際にやっているので、もっとなんかこう子どもたちがいろんなことをやれる場が必要かなと思うのですね。

今回のコロナウイルスのこともありますけども、家の中にずっといる子どもの方が心配で、外に出てきて学校なり児童館なりに来ている子どもたちは心配はないと。家の中にずっといる子どもたちの方が心配だっていうのが校長先生たちのお話でもあり、私もそう思うのですけど。チャレンジなので、もう少し何か子どもたちができることがもっといっぱい書いてあった方がいいような気がするのですけど。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さまから、ここのところは大人の「失敗しないように」という意識が表れているのだけども、子どもがさまざまなことに取り組む、それを大事にすべきだという意見をいただきました。後は表現の仕方も含めてです。

委員の皆さまの意見を承って、事務局から確認することがあったら言ってください。

○松田政策企画課長

こちらについても表現は検討したいと思います。チャレンジ、失敗、学び、その要素をここにも入れるべきか、そして実は次の「⑥ライフデザインプロジェクト」も少し関わりがあります。プロジェクト⑥は年齢に関係なく、さまざまな学びの場が確保されているということがあるので、こちらの方で間口を広げているところもあります。どちらによりフォーカスを当てて書くべきかというところは検討させていただきたいと思います。

ここの子どものプロジェクトを書くときにいつも事務局で悩むのが、主体を誰にするかというところで、子ども目線、子どもにフォーカスを当てる、そして親にもフォーカス当てるとなると、冒頭に奥村委員からもありましたように、「育つ」なのか「育てる」なのかみたいなところの書き分けがですね、実は両方取りたいという気持ちがあって今このような記載になっていますけれども。そこについても、いったん整理したうえで必要があれば書き分けるということもありますし、より分かりやすく表現できるように検討したいと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。ではそのようなことで進めるということで、次でございます。

次は「⑥ライフデザインプロジェクト」 23 ページ、24 ページについて、皆さまからご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

「実施の方向性」の 02 ですけれど 1 つ目の黒丸で、「個々人の状況に合わせた多様な働き方の推進」なのですが、これは少し前向きな書き方というか、何のためにやるかを書いた方がいいのかなと思いまして。例えば、「多様な働き方の推進による希望するキャリアの実現」ですとか、そういった方向の書き方ができないかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今野彩子委員のご意見も踏まえて、委員の皆さまどうでしょうか。

ではそのほかの意見もいただいて、事務局とのやり取りをしたいと思います。

23、24 ページ 「⑥ライフデザインプロジェクト」のところでご意見、確認とか承りたいと思います。いかがでしょうか。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

01の１個目の黒丸のところ、「学びを地域に還元する」という言葉があるのですけども、ここは「還元する」という言葉ではないほうがいいのではないかなと思ったのですけど。では何にしたらいいのだろうかなと思って。学んだから実践するみたいなことなのか、普通の言葉しか出てこなかったのですけども、学んで還元するよりは、次の行動につながるみたいな言葉のほうがいいのかなということが１つ。

後もう１つがその下の、すぐ下の黒丸のところですけども、「文化芸術・アート・スポーツに親しめる環境づくり」。その下には「アートに触れることができる場の創出」ということで、この「親しめる」ということと「触れることができる」というのは、チャレンジの言葉としてはだいぶ控えめかなということで、触れたうえで自分がその作品をつくったり、スポーツをやり始めて大会に出場するといったことがイメージできるような、発展した言葉もここにいれるといいと思います。「親しめる」からもうちょっと踏み込んだ言葉と、「触れる」、「アートに触れる」から、もう少し踏み込んだ言葉もあって、仙台市民みんながいろいろな方法で自分を表現して楽しんでいるみたいな、アクティブなイメージが伝わるような表現にしていただけると良いかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。もっとアクティブな、踏み込んだ表現をということ。現状の表記は控えめすぎるのではないかという意見ですよね。ありがとうございます。

今野彩子委員、遠藤智栄部会長代行のご意見につきまして、委員の皆さまいかがでしょうか。

ではいったんここで、表現的なこともありますので事務局お願いします。

○松田政策企画課長

今、３つご指摘いただきました。多様な働き方の促進の１つ目のキャリアの実現、目指すところをはっきり書いた方がいいのではないかというところについては、この１つ目のポツに書くのがいいのか、そもそもその上の「多様な働き方を促進する」のところに全部かかるものなのかというところもありますので、どこに入れるかも含めて検討させていただきたいと思います。

「還元する」というのはさすがにちょっと行政的な言い方でした。意味合いとしては、地域で学んでいる方とそれからそういう担い手を欲している方々もいますので、そこがうまく流れるようにして、学びを地域で実践して生かすというようなニュアンスで考えていましたので、よりくだけた、分かりやすい表現にしたいと思います。

「アートに触れることができる」だけではないというのは、その通りなので、例えば体験にまでつなげるような、そういう一歩進んだような。動きが見えるような表現に工夫をしたいと思います。

○阿部一彦部会長

今、事務局から皆さんのご指摘を踏まえて、変更というか修正の方向性について話がありましたけども、そのことも含めて皆さんいかがでしょうか。

「⑥ライフデザインプロジェクト」について、岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

事務局からのコメントは、その通りだと思います。別のところなのですけど、先ほど奥村委員がおっしゃっていた余白を設けていた方がやっぱり全体的に良いのではないかという目線を持ってこの「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」の 02 を見ると、限定していると思ったのですね。テレワーク、在宅勤務、コワーキングみたいな表記があると思うのですけれども。そこもたぶん 2030 年には思ってもみないような働き方が出てきているのではないかということ思って。

ここを１つとっても子連れで勤務するとか、週限定で勤務するとか、そういうことの目線がもう、もはや抜けてしまっているので、表記はすごく難しいなと思いながら。ここは直さなくていいのかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。ここに列挙してしまうと抜けてしまうものがあるので、列挙することによって限定されているようなイメージになってしまうのではないかということですよね。そのことなども含めて委員の皆さまいかがでしょうか。

今野彩子委員、お願いします。

○今野彩子委員

ここだけ具体的だなと言うと、その通りだと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

たぶんここも結局､行政の仕組みからすると違うところが扱っていたからこういう書き方になっているのだと思うのですけど、本当は特に福祉とか、その地域で起こるような問題に対して、能力のある人がそれを解決することが新しい仕事として成り立って、あるいはそれに応じた働き方みたいなものが、今ない働き方や今ない仕事、今ない職業みたいなものが出てきて欲しいのですね。だから「多様な働き方」と、働き方になってしまっているだけど、本当は仕事そのものをちゃんと見つけてよというか、そういうことなのかなと思うし、学びが仕事になるかも分からないし。

これだとあたかも学ぶ環境とか、働く環境とか、楽しむ環境が別々にそれぞれありますよというイメージになってしまっているのだけど、本当は一気にそういうことが、ある人にとっては学びになる、ある人にとって働く場所になる、人にとっては楽しむ場所になる

ような、そういうような新しいものがどんどんまちの中から生まれてくるような、そういうまちであって欲しいという意図なのですね。

だからこう分けてしまうと、特に働き方という言葉が良くないのかな。何か働き方と言われたら、働かせている人が誰かいて、というイメージになってしまう。今の働き方改革ではなくて、何かこういうふうな能力をこういう人たちのニーズとうまくくっつけて、こんなふうに解決していくよというような取り組みというのが新しく出てきてほしいなという。それを１、２、３のところにうまく書くのはなかなか難しいかなと思いながら聞いていました。ただ私が意図しているのは、そういうような姿があったらいいなと思っています。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

「⑥ライフデザインプロジェクト」なので、今までというのは、例えば、高齢者のために介護保険とか障害者のために何々とかというようにしてきたのですけども、これからは誰でも障害を持ってても、高齢者でも、自分がやってもらうこともあり、自分ができることもしていくっていうことが必要なのではないかなと思うのですね。

年齢制限とか、障害を持っているとか持っていないとか関係なく、お互いにできることはずっとしていく。それが働くことにつながるのかなと思うのですけど。そういうことをしていかないと経済的なことも含め、生活のことも含め、大変な 10 年後になるのではないかなと思うのですね。

だから障害を持っている方も、してもらうというのも大切だけど、自分たちもするという場の設定とか、そういうことがライフデザインの中にあればいいのかなと思うのですね。

○阿部一彦部会長

大事なご指摘ありがとうございます。佐々木委員、お願いします。

○佐々木綾子委員

ここは私もぼんやりして、どうお話したらいいのかなと考えていたのですけども。今、お話を聞いていて、やはりその働き方、学びと働きと楽しめるってどうしても分断されてしまっているのは、確かに感じるなということが１つの意見でございます。そこが絡み合うことですごく充実した豊かな人生が得られるだろうな。

それが多様な生き方なのかなと。仕事とか学びとか遊びとかその人のバランスがあって、豊かな、その人なりの生き方があるのかなと思っていて。生き方と言葉にしてしまうとバランスがおかしくなってしまうのですけれども、そういったイメージなのかなということを今感じておりました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。さてここのところでご意見いただいて、事務局で方向性の確認に進みますけど。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

先ほど小岩委員がおっしゃっていた02の２つ目の黒丸辺りと関係するかなと思うのですが、２つ目の黒丸のところに「仕事の確保」という言葉があります。「仕事の確保」だと誰かが確保してくれるみたいなニュアンスも感じたりしてしまうので、「仕事づくり」とか、自分でも自分の仕事をつくっていくみたいなイメージで「仕事づくり」という言葉でもいいのかなとも思いました。

23ページの「⑥ライフデザインプロジェクト」の目標が「学び・働き・楽しめる環境をつくる」ということで、ここにも「働き」とあるのですけども、「働き」とか、24ページは「働き方」とか「仕事」という言葉が出るのですけども、仕事には、お金が入る仕事とお金は入らないけど大事な仕事という２つがあると思っていて。お金は入らないけども大事な仕事は、よく私は「活動」という話をしたりもして。介護予防などでも活動というのは、人が、人間らしく、自分らしく生き続けることにおいてとても重要だなどとも言われているので。この「活動」みたいなものをニュアンスとして感じられるような文だといいなと思ったのですけども。お金も必要だし、でも自分が大切だと思うことを活動として楽しくいろいろな人とやっていくことが心身とか体の健康にもつながるというデータも出ているので。そういった部分も少し入るといいかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。ここのところではこの評価の仕方に関して、組み合わせ方、学び、働き方が別々というのも、少し捉え方としておかしくなるのではないかという意見をいただきました。そのほか意見をいただいて、そして事務局で今の委員の皆さまのご意見を踏まえた方向性の確認と進みたいと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

ただいま委員の皆さまからご意見いただいたことに関して、整理する方向性の確認ということで事務局お願いします。

○松田政策企画課長

ここはどうしても働くということによりフォーカスが当たりすぎている。それ以外のこともあるだろうというご意見だと思います。それが生き方という表現なのか、活動なのか、今ちょっと思ったのは活躍なのか。いろんな表現があると思いますが、働くということに限定せずに、また例えばさまざまなその活躍の場を広げる環境づくりであるのか、そういう少し広げた方向でということであれば、そのような表現にしたいと思いますし、それに合わせてこの２つ書いてある、より具体の内容についても、少し幅を広げるような形で検討したいと思います。

○阿部一彦部会長

検討の方向性ということで、事務局から提案がありましたけども、このことに関しまして委員の皆さんいかがでしょうか。その方向性でよろしいでしょうか。

ありがとうございました。そうすると③、④、⑤、⑥の方向性が確認できたということです。

そうしますと今度は①、②、⑦、⑧ですね。「⑦TOHOKU チャレンジプロジェクト」の東北の意味ということで小岩委員から確認いただきましたけれども、①、②、⑦、⑧について、時間はわずかでございますけれども皆さんいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。もう１つの部会で話題になったこととか簡単に紹介していきたいと思いますけども。

遠藤智栄部会長代行からご意見をいただいて後、事務局から他の部会のことを簡単に話してもらいます。

○遠藤智栄部会長代行

13 ページの表のところです。「緑被率・１人あたり公園面積」ということで２つデータを載せていただいているのですけれども、たぶん公園の活用度、どのぐらい使われているかという数字もあると思うので、それが仙台の場合はどのぐらい、全国的にどのくらいなのかみたいなのも、前に聞いたことがあったような気がするのですけど。そういう数字で、例えばチャレンジが必要な数字があればもっと公園を活用することも含めて、課題がまだまだあるということも含めて何か表現できるのかなと思ったのですけども。今の数字だと 15 中の２位と 20 中の３位ということで、良い方ですよってことだと思うのですけども。

○奥村誠委員

左下の表がそれだと思います。全然公園が利用されていないというデータ。

○遠藤智栄部会長代行

そうですか。これは仙台市の調査ですよね。私がさっきお話ししたのは国土交通省の何か計算式があったような気がしたのですけども。公園がまだまだ利用されてないということは、こっちの方が分かりやすいかもしれないですね。失礼しました。

○阿部一彦部会長

確認ありがとうございました。そのほか①、②、⑦、⑧で。時間は短い時間になりますけれども。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

「②防災環境都市プロジェクト」の右のページ 02 の「公共交通機関等の環境に優しい移動手段の確保と利用促進」の項ですけれども、これ本当に書き方が難しいなと思いながら、私自身がライフスタイルが変わって、バスとかの利用がすごく増えて、その中で利用

促進したい気持ちはすごく分かるのですけど、これは使いたくないわっていうことがやっぱり結構あるのですね。それは設備と書いてしまうとすごくお金かかるので書かない方がいいだろうなって思うのですけど。見直しなのかな。仕組みの見直しとか、そういうことは要素としても入れなくていいのかなということを少し思いました。

たぶん、ただ利用促進をするだけだと使わない人がまた続けて出るのではないかなと。実際に生活で使っている人間としての目線でした。それを入れるかどうかも踏まえて、皆さんからご意見をいただきたいです。

○阿部一彦部会長

これは「まちと活力部会」の所管ではありますけども、その辺について何かご意見とかあったのかどうかを確認したいと思います。

○松田政策企画課長

「まちと活力部会」ではそういったご意見は、特段はなかったところではあります。今の部分については、分野ごとの施策のところで例えば39ページなのですけれども、交通、（４）の交通政策の推進であったり、向上するための交通環境の改善であったり、公共交通の快適性、利便性の向上。この辺りで仙台市が行う部分としては入ってきているところではあります。

○阿部一彦部会長

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

今のことに関連するのですけど、仙台ぐらいの大きさのまちなのだから、逆に言うとそんなにギスギス言わなくてもいいんじゃないか。私は公共交通は使わないからあっちゃダメなのかってなるのだけど、車運転できる時にはそれでいいのだけど、ケガして自分で運転できなくなったら公共交通機関使わないといけなくなるわけで、飲みに行ったら車運転できないわけで。そうすると、仙台ぐらいのまちは、公共交通を使っている人はそれなりにいるのだったら、今もうあるものだから、あるものをみんなでうまく使っていきましょうよ、そんなに細かいこと言わないでねっていうのが、実はこういうまちの力ではないかなと本当は思っているのです。新しいものをつくるって言うのだったら、ものすごくお金かかるから、いろいろ検討しないといけないけど。

もっと余裕がなくなってきたら本当にもう公共交通をやめるかやめないかっていうところまで行くと思うのだけど。今さら、例えば地下鉄、人があまり乗ってないねって言ったからやめましょうかってことには絶対ならないわけで。むしろ今ある地下鉄を生かしながらイベントでもして人に乗ってもらおうとか、そういう楽しむとか、そういう余裕もあっていいのかなって。

でもこれまでは政策というのがいかにもそのために必ずこれをして、ここまでやりますっていうものがきっちりしてないとお金が回らないとか、認めないという時代があったけ

ど。これからはそういう時代じゃなくて、もう今まで前の人たちが残してくれたものがそれなりにあるのだから、それをうまく使って、それで何かやっていこうよっていうぐらいのスタンスでもいいのかなと思うところがあります。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。岩間委員、いかがでしょうか。

○岩間友希委員

そういうのがあって難しいのですけど。私自身は車の免許もないので公共交通に頼らざるを得ないのに使いたくないぐらい不便なことがあるのですよ。すみません、まとまってない意見で。

○奥村誠会長

もう１つ。だから「利用促進」と書くと、こういうふうに用意しましたよ、後は使わないあなたたちが悪いという雰囲気が少しある。そうではなくて、みんながこれって使える時には使えるのだよねって。便利だよねって。もちろん不便なところもあるのですけど。みんなでこれあって良かったねっていう感じで、そういうふうに浸透していくってことが大事な気がしています。

公共交通はサービスなのだから、気に入ったら使ってね、気に入らなかったら使わなくていいからという世界ではなくて、公共交通というのは結局、まちとして持っておきたい基本的な仕組みというのがベースになるものだと考えれば、自分が使ってないからいらないではなくて、きっとまちにはこのぐらいのものがあっていいというのが本当はあって、それについて皆で支えましょうね。それなりに持続していきましょうねということが必要な感じがするのです。

それに対してこの公共交通機関は、「公共が交通機関を用意します。住民は気に入ったら使ってください、気に入らなかったら使わないんだけど、それを利用促進してできるだけ使ってくれる人を増やしてもらいましょう」というのは、あたかもサービスを提供している側の行政が言っている言葉でしかなくて。

市民の側が「利用促進」と言わないですよね。市民の側だと一緒に自分たちで支えていくというふうに都市インフラというのを考え直していただかないと、基本的にはいけない時代になってきたのかなと思うということです。

すみません、ちょっと時間がない中で余計なこと言いました。まとまっていなくてすみません。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。ここのところもやはりその構成とか表現の仕方では工夫が必要。

遠藤智栄部会長代行。

○遠藤智栄部会長代行

16 ページの 03 のところのタイトルが「日常に浸透させる」という語尾になっているのですけども、浸透させるということは今浸透してないのかなと。でも目標のところは仙台防災枠組のことですとか、東日本大震災のことを発信すると書いているので、何て言うのですかね、「さらに浸透する」ではないですけど、一定は浸透しているけれども取り組みが少し弱まってきていると捉えるのか。03 のところが「浸透させる」だと少し弱いかなと。

あと 03 の２つ目の黒丸に「世界に発信する」ということと、目標のところにも「世界への発信」ということがあるので、03 のタイトルのところにはもう少し世界に発信するみたいな表現もあった方がいいのではないかなと。今のままだと、あまりできていないと捉えているのかなという印象を受けるタイトルかなと思いました。

○阿部一彦部会長

委員の皆さまから今ご意見をいただきまして、これは「まちと活力部会」の所管ですけれども、これをどう皆さんの意見をつないでいくことができるのかみたいなこと、事務局にありますか。

○松田政策企画課長

いただきましたご意見につきましては、表現的なところも多々あったかと思います。こちらについては、事務局で精査をして修正等を加えまして、次の全体会の中であらためて 30 人の委員の先生方の目で見て、もう一度確認していただこうと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。というようなことで進めさせていただき、「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」について、私たちの所管というか③、④、⑤、⑥については方向性が確認できました。だけれどもこれをどうまとめるかについては、事務局と案について検討させていただくということで、これは一任させていただいてよろしいでしょうか。

そしてまた全体の中でもご意見をいただくというふうに進むのかなと思います。よろしくお願いいたします。

では事務局との相談のうえ進めさせていただきます。

続きまして、時間はもう 20 時になってしまいましたけれども、資料の５ページから 11 ページまでですけれども、計画全体を分かりやすく示す図ということで、今度作成していただいた５ページです。それから「Ⅱ　新たな杜の都に向けて」というところ、これらについてご意見をいただきたいと思います。

“The Greenest City”に８つの「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」、そして「Ⅳ　各分野別施策一覧」がどうつながっているのかというところは前回の部会でもかなりご意見をいただきました。先ほどの「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」の議論を踏まえまして、すみませんもう 20 時過ぎたけども、もう少しだけ議論させていただいてよろしいでしょうか。

10 分ぐらいで皆さんからご意見をいただいて、全体会にどのように議論を戻すのか考え

てまいりたいと思います。

まずはその５ページの全体像について、こちらは皆さんのご指摘のうえで出来上がってきたことでもありますし、そして６ページからの「Ⅱ　新たな杜の都に向けて」、時間は限られていますけれどもご意見よろしくお願いいたします。

５ページの全体像を分かりやすくなったということでよろしいでしょうか。いかがでしょうか。遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

５ページの図の、網を敷いてあるところなのですけども、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴはそのままの言葉ですよね。「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」「Ⅳ　分野別施策一覧」と「Ⅴ　区別計画」。

「Ⅱ　新たな杜の都に向けて」、「Ⅵ　総合計画の着実な推進」と、少しコピー的な、こういうふうにしたいのだということが表現されている言葉なので、このⅢ、Ⅳ、Ⅴの辺りも、そういうように少し意思を含んだようなキャッチコピー的なものにして、その説明が中に入っている方がいいのか。それともこのⅢ、Ⅳ、Ⅴはそのまま、そんなにキャッチコピーではない、思いが乗っかってはいない言葉になっていますけども、そのままでいいのか。何かもうちょっとこう「Ⅳ　分野別施策一覧」ももうちょっとこう気持ちがのるような少しコピーにしたほうがいいのかなとかですね。私も悩んでおりました。

○阿部一彦部会長

そのことについて委員の皆さまいかがでしょうか。またその思いを入れるということで全体が分かりづらくなるかどうかも含めてですよね。シンプルに書けということなのか、その辺も踏まえて委員の皆さまからまず意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

遠藤智栄部会長代行のご意見も素敵だなと思うのですけど、計画の構成について語っているページなので、私は今の表記でも十分分かりやすいかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。傳野委員、お願いします。

○傳野貞雄委員

シンプルイズベストという言葉があるのですけども、あまり書くよりは１行、２行で表現するというのはまさしくシンプルかなと思いますので、良いかと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。他の委員の方々。

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

私の認識では、要は目次が図になっているという認識なので、これでないとまた悩むと思うのです。本当は目次のすぐ後にこの計画書の構成があってもいいぐらいの話なのだけれども、「はじめに」の前にこの図を置くよりは、やはりやりたいことというのがあってから「次に」ということで今ここに入っているだけなので。目次を図にした説明なのだということで言うと、これを変えてしまうとまた目次ごと変えなくてはいけなくなるので、大変かなと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今、３人の委員からは、全体像を見るという大きな意味はこれで伝わるのではないか。加えるとまた分かりづらくなる可能性もあるのではないかというご意見をいただきましたけども、他の委員の皆さまいかがでしょうか。

小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員員

私もこれでいいのではないかなと思うのです。分かりやすいかなと思って。そのままの言葉の方が目次的にはいいのかなと思っていました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。皆さん表現はこのままでというご意見ですね。遠藤智栄部会長代行も迷いの中での言葉だったわけですが、よろしいでしょうか。

ではそういう方向で。ありがとうございます。

続いて「Ⅱ　新たな杜の都に向けて」に関して、時間はほとんどないのですけれどもいかがでしょうか。

阿部重樹委員、お願いします。

○阿部重樹委員

時間がないところ、飛んだところと関連したことの発言をお許しください。８ページはこのままで結構だと思います。それで８ページの「共生」のこれまでの歩みのちょうど真ん中頃、「2011 年の東日本大震災発生時には、町内会やＮＰＯ、企業などが持つ強みと支え合いの力が」と書かれています。それで少し気になったのは、飛んだというのは、部会長のエリアから、範囲から飛ぶのですが、41 ページです。真ん中頃に中黒点で「・危機管理の推進」という項目があると思います。で「地震や豪雨などの」で始まってきます。そこから４行目のところですが「自助・公助の取り組み」とあるのですね。先ほど８ページのところと対応させると、ここに「自助・共助・公助」。自助・共助・公助という組み合わせの方が、全体の流れにあっているような気がします。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。大事なご意見ありがとうございます。ただいまの阿部重樹委員の意見に関しまして委員の皆さまいかがでしょうか。

自助・共助・公助ということで。ほとんどの方にうなずいていただいたということです。

事務局もうなずいていますし、そのところしっかりとまた踏まえて修文、中身を充実させていただきたいと思います。

では続きまして、今度は「Ⅳ　分野別施策一覧」。29ページです。限られた時間で申し訳ありませんけれども、ご意見いただきたいと思います。

ここは網羅的に施策が書いてあるということですけれども、いかがでしょうか。

遠藤部会長代行。

○遠藤智栄部会長代行

32ページの「１地域福祉」の（２）の１つ目の黒点なのですけれども。「企業や学生など多様な主体が」ということで書いていただいているのですけども、この学生のところを若者にした方が、ターゲットが広がって、前談で書いている子どもたちとか大学生とか高校生とか、仕事をしている若い人たちということも含められるので、若者という表現の方がいいのではないかなと思いました。

国際センターでワークショップをした時、私は地域コミュニティーを担当したのですが、その時もすごく若いサラリーマンの方が参加してくださっていて、やっぱり平日は残業があって地域活動に参加したくてもできないのですよという悩みをおっしゃっていたりして、そういった若い、働いている方もどういうふうに地域や福祉に関わるかという問題意識をお持ちになってくれているのだなというのもあったので。学生だと範囲が狭いので。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。これ大事なことですね。今のご意見について事務局どうですか。

○松田政策企画課長

ご指摘の通りですので修正したいと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。そうすると次残っているのは「Ⅰ　はじめに」、「Ⅴ　区別計画」、「Ⅵ　総合計画の着実な推進」、「Ⅶ　資料編」の４つです。これも何かお気づきのことがありましたら。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは基本計画の検討を本日は限られた時間の中でさまざまな方向性について委員の皆さまからのご意見をいただき、方向性を確認していただきました。

そして、先ほども申し上げましたけども「Ⅲ　チャレンジプロジェクト」の③、④、⑤、⑥については、事務局が皆さまのご意見を踏まえて、検討して、それを確認させていただきたいと思います。

それでは基本計画の検討についてのこの部会での審議はこれまでとしたいと思います。皆さまどうもありがとうございました。

(4) その他について

○阿部一彦部会長

最後に「その他」です。委員の皆さまから何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では本日の議事は以上で終了いたします。これまで４回にわたって部会で皆さまと検討を重ねてまいりました。あらためて感謝申し上げます。座長としてなかなか時間管理がうまくいかなかった部分もありますけれども、皆さんのご協力でここまでまいったところです。

３　閉会

○阿部一彦部会長

最後に事務局から何か連絡等ありましたらよろしくお願いします。

○松田政策企画課長

２点ございます。今日も長時間にわたるご審議ありがとうございました。おとといの「まちと活力部会」でも時間を超してご審議いただいたところでございますけれども、なかなか限られた時間で全ての資料に目を通してご意見いただくということが難しいと思っておりますので、もし今後また資料を見返す中でお気付きのところがあれば、後日メール等で構いませんので、追加のご意見などいただければと思っております。

それから２つ目ですけれども、次回の審議会でございます。先ほど日程のところでご説明したとおり、次は全体会に戻っての審議となります。日程は５月中旬で調整をさせていただいているところですが、日程・会場等決まり次第お知らせしたいと思います。

○阿部一彦部会長

以上を持ちまして、審議会について終了いたします。